

NPO 法人沖縄伝承話資料センターだより 27号

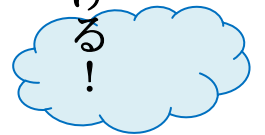
はにんす

5月2日、新しい名護博物館が開館します。テーマは、「名護・やんばるのくらしと自然」。場所は、名護市大中の元林業試験場跡。多くの木々に囲まれています。中庭には古民家も復元（写真）。5月3日、その古民家で「民話の部屋」が開催されま



JTA機内で

沖縄の民話が聞ける！



今、日本トランスオーシャン航空（JTA）に乗ると、沖縄の民話が聞けます。

JTAは、沖縄に根差した航空会社として、沖縄のしまくとぅばの普及継承に寄与するため、機内で沖縄の民話が聞ける取り組みを実施しています。

JTAの客室乗務員が、沖縄伝承話資料センターが提供した資料や沖縄県立博物館美術館の「ウチナー民話の部屋」を参考にして語っています。

今公開中の民話は、名護市宇茂佐の山本川恒さんの語った「海の神と陸の神」です。若い客室乗務員が、いっしょけんめいに話者の語り方を学び、実に味のある語りを披露しています。ぜひ、JTAにご搭乗いただき、ユニークな取り組みを味わって下さい。

JTAでは、引き続き、大宜味村の話者の語った「鳥とコハル」や、北中城村の話者の語った「雨蛙不孝」を公開していく予定だそうです。

したいひゃ！（でかした！）

高校生、沖縄の民話を学ぶ！

南部農林高校
開邦高校



昨年の5月、「沖縄の民話について教えて下さい」と、担当の上原いずみ先生に引率されて沖縄県立南部農林高等学校生活デザイン科生活福祉専攻の生徒3名がセンターに訪ねてきました。課題研究で民話を学び伝える活動をしているとのこと。

7月には、「沖縄にはどんな昔ばなしがあるのか？」と、沖縄県立開邦高校の生徒4名が訪ねてきました。

沖縄の高校生が沖縄の民話に関心を寄せていることを頼もしく思い、センターの大田副理事長が、沖縄の伝承話資料がどのようにして記録され、どんな話があり、それを伝えるためにはどうしたらいいのか？さらに、紙芝居を制作する際の注意点などを講義。高校生たちは熱心にメモを取りながら聞いていました。

その後、南部農林高校の生徒たちは、豊見城市字名嘉地に伝わる「キジムナー」の話の題材にした紙芝居を制作し、地域の保育園で披露するなど活発な

4年ぶりに開催！

第18回通常総会は、

5月27日（土） 14時

名護博物館で開催します。

新型コロナウイルスのため、第15回、16回、17回の総会は、書面決議による開催でしたが、今年は、2019年以来、4年ぶりに通常どおり開催します。場所は、5月2日に開館する新しい名護博物館です。久しぶりの通常開催です。ぜひ、ご出席下さい。

今年は、沖縄で本格的な「民話調査」が行われて**50周年**。それを記念した企画を計画中心！

普及活動を行っています。そして、沖縄県立博物館・美術館が主催するデジタルミュージアム推進事業令和4年度の「ウチナーの民話上映会」にも特別に招かれて手作り紙芝居を上演しました。

いっぺー上等！（たいへんよくできました！）

大学生の地域実習を受け入れ

東京・青山学院大学の学生が

沖縄の伝承話を学ぶ！

2022年12月、青山学院大学コミュニティ人間科学部の学生8名が地域実習のために沖縄を訪れ、沖縄県立図書館などで実習を行いました。その一環で、粟国島に渡って実習を行うことになっており、学生たちが「粟国島の民話」を学ぶために当センターを訪れました。

センターでの実習は、8日（木）と12日（月）。学生たちは、粟国島の子どもたちに語るため、『粟国島の民話』から好きな話を選んで、「民話の語り方」を学びました。

さらに、植物を使ったおもちゃ作りを教えるために「シーシ玉ブレスレット」の作り方を学びました。そして、嘉数高台公園に出かけて、平和について考える学習も行いました。

※残念ながら、天候不良のため、青山学院の学生たちは、粟国島に行けませんでした。

今年もやってくる！ 空とぶ図書館 in 粟国村

東京の大学生のおねえさん・おにいさんとあそぼう！

■あぐにじまのむかしばなし■
12/10（土）午後3時～3時30分ごろ
12/11（日）午前10時～10時30分ごろ
粟国島総合センター

「べんとうのおかし」「おみそかのきやく」
「薬師トッチとはこのねずみ」・・・
あぐにじまの おじいさん・おばあさんたちから お話してもらった むかしばなしのおはなし会。
ちょっとこわいおはなしもあるかも？

【クイズえほん】や【大冊えほん】など、みんなであそべる絵本の読み聞かせもあります。ご家族でぜひ遊びに来てください！

むかしばなしに出てくる【おもちゃ】をつくる 工作教室 も！
あぐにじまの しょくぶつ（シシダマ）をつかった、かわいい・かっこいいブレスレット をつくってみませんか？（※参加費無料）

■おもちゃづくり教室■
12/10（土）午後4時～6時
12/11（日）午前11時～12時
粟国島総合センター

主催：粟国村教育委員会+沖縄県立図書館「空とぶとしょかん」
企画：青山学院大学コミュニティ人間科学部・地域実習 G2(沖縄)グループ

【学生の感想文（一部抜粋）】紹介

◆実習の初日が沖縄伝承話資料センターというところで、始まる前まではとても緊張していましたが、センターの皆さまが優しく迎え入れてくださり、とてもリラックスすることができました。センターでの実習は民話や昔の遊びを学ぶことが中心でしたが、沖縄県には「基地問題」があり、戦争経験者の生存者が減ってきていて、どうにかしてこの現状を変えたいという思いがあることが、照屋さん、大田さんをはじめ、いろいろな方との交流から伝わってきました。まだまだ自信を持って沖縄の問題を語ることはできませんが、実習を終えて、沖縄の方々からもっと話を聞きたい、もっと勉強したい、という気持ちになっています。

伝承話センターでの実習の中では、「伝統文化は継承していく人、伝えていく人がいなければ消えてしまう」「形をそのまま残すことにはこだわらず、昔の人たちの思いを伝えていくことが大切」といったことを学びました。また「伝承文化を伝えるためには、まず子どもたちとの心の距離を近づけることが大切」という言葉は、私たちのような本土から来た学生たちに対してセンターの皆さまが意識してくださっていたのではないかと、こちらに戻ってきてから改めて感謝しています。

本日の「家族のような暖かさ」で私たちを包んでくださり、たくさんのことを教えてくださったセンターの皆さま、ありがとうございました。

◆初日の実習の中で、大田さんが「民話は地域の財産」と仰っていたのがとても印象的でした。実習に来るまでは、なんとなく「形のあるものが財産だ」というイメージを持っていたのですが、形のない民話・昔話であっても、形があるものと同じくらい、もしかするとそれ以上に、その地域にとって大切な財産となることを、2日間のセンターでの実習と、県立図書館でのおはなし会や工作教室を通して実感することができたように感じています。

大田さんが私たちに民話を語ってくくださった際に、話を聞いている私たちの目を見ながら自分の言葉で語っていたり、怖い話の時に机を叩いて

更に怖さを増す演出をされていたりして、民話の語りには語る人の個性が出るものだというのを感じました。話を覚えて語る、という経験は初めてで、難しく感じていましたが、「自分らしく語る」「自分自身が楽しむ」とで、相手も楽しんで聞いてくれることを教えていただき、県立図書館でのおはなし会当日も、なんとか緊張せず楽しく取り組みことができました。ご指導いただき、本当にありがとうございました。

◆実習の最終日は、嘉数高台公園に行って自然体験を行いました。当初は伝承遊びを体験するだけかと思っていたのですが、公園には地上戦が行われていた当時に実際に使われていた攻撃のためのトーチカの跡や銃弾の跡が残っている壁もあり、「戦争」というものを生まれて初めてこの目で見て、生まれてはじめてまじかに実感できたように思います。高台からは普天間基地を一望することができました。高台から見る景色は、ニュースを通して知っていた映像以上に、想像していた以上の光景でした。基地の近くに住宅や学校が密集していて、見学し

ている最中にも大きなジェット機やオスプレイが飛んできて「世界一危ない飛行場」であることを再認識させられました。

実習を通して、民話や昔遊びを継承していくことの大切さを学ぶだけでなく、こうした問題は次の世代に引き継いではいけない、ということも教えていただいたように感じています。ありがとうございました。

◆沖縄は日本有数の観光地であり、県外の人たちにとってはその華やかな部分しか見えていないかもしれません。しかし、観光で沖縄を訪れる場合にも、もっと沖縄の現状を知ることが必要なのではないか、ということがこの実習を通して痛感しました。

今回の実習で最も大きな発見だったのは、沖縄に住んでいる方々が普天間基地に対して大変な嫌悪感を抱いているということでした。照屋さんは普段は温厚な方で、子どものような遊び心を忘れないチャームिंगな方ですが、普天間基地について語るまなざしには「怒り」をひそめた「悲しみ」が宿っていたように感じました。普天間基地について語り始めた際に、照屋

さんの表情が一変したことも忘れられません。

沖縄の上空には今も無数の軍用機が飛び交い、それらがいつ墜落してもおかしくない状況があります。沖縄に関わった一人として、こうした経験を同世代の人たちに伝えていきたいと思っています。

◆「てるかん」さんはじめ、伝承話センターの皆様には、1日目の玩具あそびの伝授から、5日目の平和学習まで、たくさんお世話になりました。沖縄で生まれ育ち、その環境が少しずつ変化していく様子を直にご覧になっているからこそ、「伝えたい」という熱意を熱く持っていらっしやることばかり、感激しました。またギャグセンスの高さに驚き、ぜひてるかんさんの弟子になりたいと思いました。

大田さんには、民話の語り方について、技術的な面や、知識的な面を学ぶことが多くありました。私たちが民話の語りを練習する際には、いつも「大田さんならどうするだろう」「大田さんみたいに語りたいね」と話していて、そのくらい大田さんの語りは印象深かったです。

宜保さん、新城さん、安里さんには、たくさんのご厚意をいただきました。研修中にいただいたハーブティーやコーヒーの味は忘れません。また、美味しいモズクのお天ぷらやお芋の天ぷらには本当に美味しかったです。お忙しい中、送迎をいただいたり、一緒に玩具遊びを楽しんでくださり、本当にありがとうございました。みなさんの優しさのおかげで、一生忘れないような時間を沖縄で過ごすことができました。



豊見城市の

民話調査資料

650話の翻字資料を点検

豊見城市の教育委員会文化課では、1989年から行われた民話調査資料を有効活用するために、一次翻字された民話資料の点検について当センターに依頼がありました。

その依頼を受けて、センターでは民話調査や翻字作業の経験豊かな会員に呼びかけて作業を行い、去った2月2日、無事、650話の点検作業を終え、納品することができました。

作業したメンバーは、50代から70代の15名。いずれも学生時代に民話調査を経験し、話者から直接民話を聞いてきたメンバーです。話者から直接話を聞き、何度も何度翻字作業をしてきた経験が大いに生かされた作業となりました。

今、民話を語れる話者はほとんどいなくなりました。学生時代に多くの話者から民話を聞いてきた今回の作業メンバーもまた、貴重な存在といえるかも知れません。

【絵本の紹介】

「言語復興の港」が出版した
「琉球諸語の昔話絵本」4冊

『デイラプデイ』ー与那国島ー

作話／與那覇悦子
絵／山本史
ことばの解説／山田真寛

『星砂の話』ー竹富島ー

伝承／内盛スミ
絵／山本史
聞き取り・共通語訳・
ことばの解説／中川奈津子

『カンナマル クールクの神』

ー多良間島ー
伝承／野原正子
絵／山本史
聞き取り・共通語訳・
ことばの解説／下地賀代子

『塩一升の運』ー沖永良部島ー

再話／松村雪枝・田中美保子
絵／山本史
ことばの解説／横山晶

「言語復興の港」のホームページに、「子どもたちが大人になったときにも、しまのことばが聞こえる世界を残すために」

「言語復興の港」では、地域言語研究者・作家やデザイナーなど言語以外の分野の専門家・地域言語の母語話者や継承者が協働し、地域言語が消滅の危機を脱するためのさまざまな取り組みを行っています」とあります。上記の絵本は、その活動の一環として制作されたものです。

【本の紹介】

『日本と「琉球」 南島説話の展望』

福田晃 著 法蔵館 発行

著者の福田晃氏は、1973年に当センターの初代理事長・遠藤庄治らとともに沖縄で民話調査を開始した一人。
2022年1月にお亡くなりになりました。

本書は、長い間、南島説話を研究された福田氏の集大成といえる本。特に第3部の「南島説話大成」の可能性や、資料編の「南島説話大成ー試案ー」が興味深い。福田氏は、今年の2月、第50回伊波普猷賞を受賞しました。

■会費の納入よろしくお願ひします！

- ①ゆうちょ銀行 口座番号：01760-0-78884
②沖縄銀行宜野湾支店 口座番号：1371606
口座名義は①②とも下記のとおり。
特定非営利活動法人沖縄伝承話資料センター

5月27日(土)
総会で
お会いしまし
よう!!

名護博物館開館記念
「民話の部屋」
民話の語りと
草のおもちゃづくり

5月3日(水)
10時~17時

NPO 法人沖縄伝承話資料センター

〒901-2214 宜野湾市我如古2-4-15 301号

TEL/FAX 098-890-2455 E-mail: denshow1@at.au-hikari.ne.jp